

地方創生関係交付金活用事業 実施状況報告書

P.1 地方創生関係交付金(デジタル田園都市国家構想交付金)の概要

P.3 重要業績評価指標(KPI)の達成度評価基準

P.4～P.9 地方創生関係交付金実施状況報告書(令和6年度)

(1) 地方創生関係交付金(デジタル田園都市国家構想交付金)の概要

- ▶ 国において、各地方公共団体による自主的・主体的な取組について、デジタル田園都市国家構想交付金による分野横断的な支援により強力に後押ししている。

地方創生拠点整備タイプ/地方創生推進タイプ

① 地方版総合戦略に基づく、地方公共団体の自主的・主体的で先導的な事業を支援

- 先導的な事業とは、目指す将来像及び課題の設定等、KPI設定の適切性に加え、自立性、デジタル社会の形成への寄与、官民協働、地域間連携、政策・施策間連携等の要素を有する事業。

② KPIの設定とPDCAサイクルを組み込み、従来の「縦割り」事業を超えた取組を支援

- 各事業毎に、ふさわしい具体的なKPI(重要業績評価指標)を設定し、PDCAサイクルを整備することが必要。特に「事業年度毎に、外部有識者や議会の関与等も含め効果検証を行い、その結果を公表」とともに、国への報告を行う。

③ 地域再生法に基づく法律補助の交付金とし、安定的な制度・運用を確保

- 地域再生法第5条4項1号及び第13条に位置づけられた法律補助の交付金であり、内閣総理大臣から認定を受けた地域再生計画に記載された事業に交付する。

デジタル実装タイプ1/2/3等：制度概要



目的	デジタルを活用した意欲ある地域による自主的な取組を応援し、「デジタル田園都市国家構想」を推進するため、デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上の実現に向けた地方公共団体の取組を交付金により支援
概要	デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上に向けて、以下の事業の立ち上げに必要な経費を単年度に限り支援 【TYPE1】他の地域等で既に確立されている優良なモデル・サービスを活用して迅速に横展開する取組 【TYPE2】オープンなデータ連携基盤を活用し、複数のサービス実装を伴う、モデルケースとなり得る取組 【TYPE3】(TYPE2の要件を満たす) デジタル社会変革による地域の暮らしの維持につながり、かつ総合評価が優れている取組 【TYPES】「デジタル行財政改革」の基本的考え方に合致し、将来的に国や地方の統一的・標準的なデジタル基盤への横展開につながる見込みのある地方自治体の先行モデル的な取組

※出典：内閣府 地方創生推進事務局・地方創生推進室 「デジタル田園都市国家構想交付金について」(令和6年4月)より抜粋

本市では「花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議」で効果検証を行い、その結果について、市ホームページに公開することとしている。

(2) 令和6年度の効果検証を行う事業について

令和6年度に実施した地方創生推進タイプ(デジタル田園都市国家構想交付金)事業のほか、令和5年度以前に実施した地方創生拠点整備交付金(※)を活用した事業についてもKPIの達成状況について検証を行う必要があることから、令和6年度効果検証を行う事業は全部で6事業。(地方創生拠点整備交付金については、事業開始から5年目まで効果検証を行うこととなっているため。)

なお、デジタル実装タイプ(デジタル田園都市国家構想交付金)事業については、外部有識者等による効果検証の必要は無いが、それぞれの事業においてKPIを設定し、効果を検証し国へ報告を行っている。(参考資料参照)

(※) 地方創生拠点整備交付金とは、地方創生拠点整備タイプ(デジタル田園都市国家構想交付金)の前身の交付金のこと。

○令和6年度に実施した地方創生推進タイプ

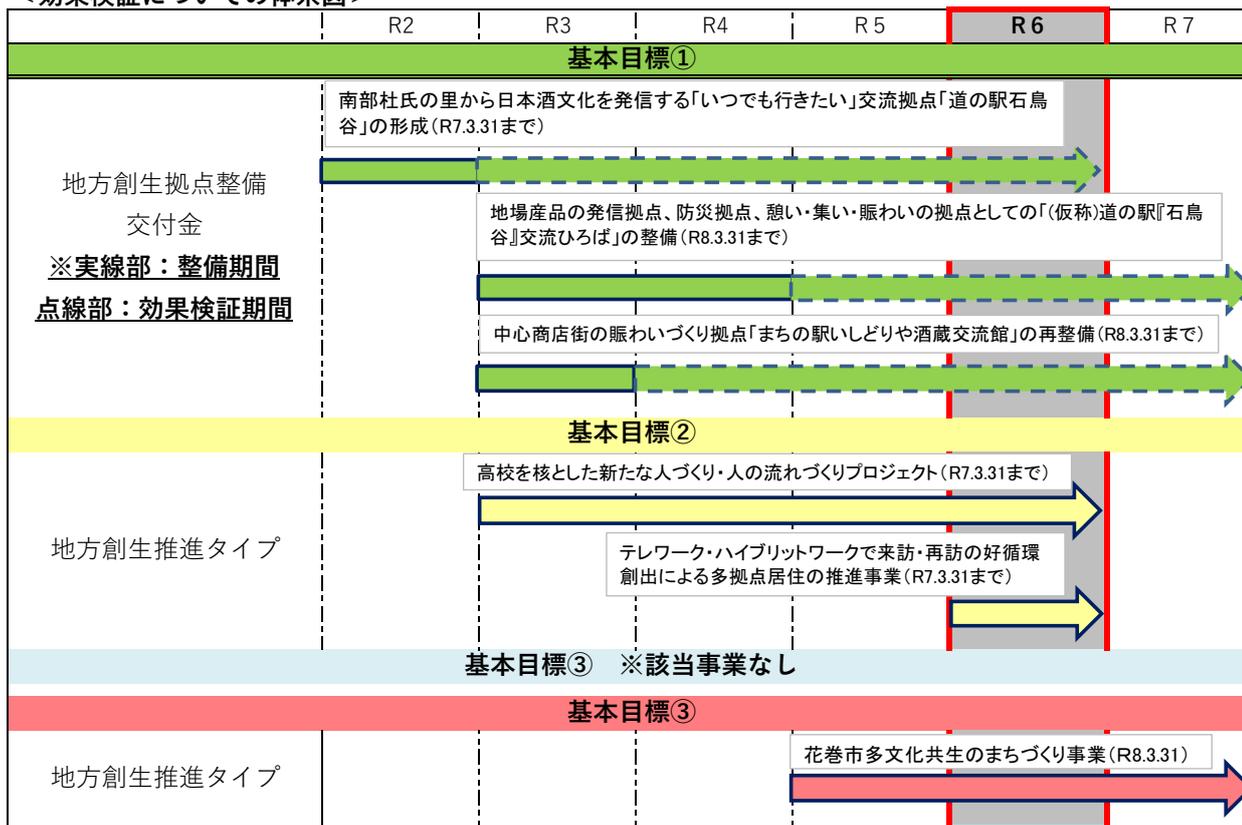
事業名	事業期間	事業概要	R6	
			事業費	交付金充当額
高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト	R3~R6	・地域・学校・行政が連携し地域外生徒を受入れる体制を整備 ・地域内外大学生・社会人との共創「若者共創キャンプ」実施 ・「地域みらい留学」「高校×地域」などの実践を磨く全国規模の研修・交流会を開催 等	10,929,722円	5,464,861円
テレワーク・ハイブリットワークで来訪・再訪の好循環創出による多拠点居住の推進事業	R6	・インフルエンサーによる造成コンテンツ体験の情報発信を通して、花巻市へテレワーク等を用いた2拠点、多拠点居住を促す	3,399,947円	1,699,973円
花巻市多文化共生のまちづくり事業	R5~R7	・花巻市国際交流センターに外国人材を雇用し、各種セミナーや交流会の企画運営を推進する。	4,827,253円	2,413,000円

合計 19,156,922円 9,577,834円

○令和5年度以前に実施した地方創生拠点整備交付金

事業名	事業期間	事業概要	R6	
			事業費	交付金充当額
南部杜氏の里から日本酒文化を発信する「いつでも行きたい」交流拠点「道の駅石鳥谷」の形成	R2	・南部杜氏伝承館を曳家し、レイアウトを変え、また、館内に試飲・販売ができるコーナーを新設。 ・地産食材を活用したレストランであるりんどう亭と地域の特産品の販売を行う酒匠館の改修を行った。	※効果検証のみの事業であるためR6実績なし	
地場産品の発信拠点、防災拠点、憩い・集い・賑わいの拠点としての「(仮称)道の駅『石鳥谷』交流ひろば」の整備	R3~R4	酒蔵交流館(土蔵2棟)を解体し、同じ場所に土蔵をイメージした外観の施設1棟を建築。ミニキッチンと倉庫を備え多目的に使用可能なホールとした。		
中心商店街の賑わいづくり拠点「まちの駅いしどりや酒蔵交流館」の再整備	R3	令和2年度に曳家工事を実施した南部杜氏伝承館などの三方の施設に囲まれた中心部に、芝生広場を整備。また、芝生広場には災害時に炊き出し作業が行える「かまどベンチ」を設置。		

<効果検証についての体系図>



【図の見方】

- ・事業について、花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標ごとに整理。
- ・地方創生推進交付金はソフト事業、地方創生拠点整備交付金はハード事業を行ったもの。
- ・矢印の実線部分は事業実施（ハード整備）期間、点線部分は効果検証期間となっている。

重要業績評価指標(KPI)の 達成度評価基準

1. 指標値に対する実績値の算出方法

$$\text{達成率(\%)} = \text{実績値} \div \text{目標値} \times 100$$

※小数点第一位を四捨五入願います。

2. 達成率の判定区分

a・・・100%以上 b・・・90%以上100%未満 c・・・90%未満

3. 達成度の判定

【A 達成できた】・・・KPIの達成率がすべて「a」

【B 概ね達成できた】・・・KPIの達成率の半数以上が「a」か「b」

【C やや達成できなかった】・・・KPIの達成率の半数未満が「a」か「b」

【D 達成できなかった】・・・KPIの達成率のすべてが「c」

地方創生関係交付金対象事業実績状況報告書(令和6年度)

No.	① 交付金の種類	② 交付対象事業の名称	③ 事業内容	④R6事業実績	⑤R6 事業費実績 (円)	⑥ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					⑦R6 実績値	達成率 (自動入力)	判定 (自動入力)	⑧達成度	⑨実績値の達成・未達成要因	⑩事業の評価	担当課	
						指標	指標値	目標値	単位	目標年月								
1	推進	高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト	<p>(背景) 地方創生の実現に対しては、教育現場における地方創生視点の欠如、教育は学校内で完結するという固定観念、学校設置者が異なる校種の壁、児童・生徒の減少による弊害、民間活力の活用を前提としない学校運営・経営の実態がありそれぞれの課題に対して取り組んでいく必要がある。</p> <p>(事業の目的) 中学卒業段階で地方への高校進学を当たり前にする (事業概要) ①地方の魅力的な教育環境を全国の先駆的な自治体と一体となって都市部へ届けることで地域の高校留学という選択肢をつくる ②高校と地域の協働により魅力ある教育環境をつくる ③高校卒業生が地域と関わり続ける仕組みをつくる ④共学共創により全国へスケールアウトさせる</p> <p>(具体的な取組) ①について ・地域の魅力ある教育環境や受け入れ体制について都市部等へプロモーションを展開 ・都市部等へ中学生親子に向けた合同説明会「地域みらい留学フェスタ」を開催 ・都市部等の中学生親子を対象にした各高校での学校説明会・個別説明会の実施 ②について ・高校と地域の協働体制「魅力化コンソーシアム」を構築・運営、そこでの調整役として「コンソーシアムマネージャー」を配置 ・地域と高校をつなぐことに特化した人材や専門スキル・ノウハウを持つNPO法人等を「魅力化コーディネーター」として配置 ・地域住民の参画による課題先進地域をフィールドとした最先端の地域課題解決型学習、ふるさと教育やキャリア教育を実施 ・「地域課題解決学習全国大会」や各地域で学び合いの場を創出 ・都市部や海外等の生徒との相互コミュニケーションの場の創出や、地域の将来を担うIT人材の育成のためのICT環境を整備 ・放課後等を利用し、地域の多様な大人が関わりながら、幅広い学力層の生徒の学習機会を提供(「公営塾」) ・地域との協働に取り組む教員をサポートする事務スタッフを高校に配置 ・地域・学校・行政が連携し地域外生徒を受入れる体制を整備 ・高校や地域の個性に応じた魅力と特色ある教育活動を応援するための財源「地域ファンドレイズ」の検討・導入 ③について ・地域内外大学生・社会人との共創「若者共創キャンプ」を実施 ・地域企業・自治体との共創「事業・政策共創コンテスト」を実施 ・地域出身者の高校卒業後の居場所「卒業生コミュニティ」を運営 ・人づくりの拠点となる公民館や大学等と連携し大学生や若者が地域活動に主体的に参画できる機会を創出 ・地域での就職活動を支援する「ふるさと就活」を推進 ・高校卒業後に地域での挑戦を応援する「チャレンジファンド」の準備・立上げ ④について ・「高校魅力化評価指標」を導入・実装することで地域と連携した取組の価値を見える化し、全国の自治体へ価値を発信 ・「地域みらい留学」「高校×地域」「卒業生関係人口化」の実践を磨く全国規模の研修・交流会を開催</p>	<p>○岩手県立大迫高等学校生徒確保対策事業 ・高校生おおはさま留学生受け入れ業務 留学生 9名(新規4、継続5) ・都市部等の中学校へ大迫高校の魅力発信 生徒募集等のDM送付 576通 ・留学生生活支援員 7名 ・高校生おおはさま留学生募集チラシ作成 1,000枚 ・地域みらい留学事業参加 ○地域みらい留学2024オンライン学校個別説明会 ・参加者数 延べ7人</p>	<p>・高校生おおはさま留学生受け入れ業務 8,957,102円 ・留学生生活支援員謝礼 857,500円 ・高校生おおはさま留学生募集チラシ作成 235,120円 ・地域みらい留学事業参加負担金 880,000円 ○交付額 5,464,861円</p>	指標①	「高校を核とした関係人口」の数(=地域みらい留学生数+卒業後も地元に関わった大学生・社会人数+地域外からの高校への応援者数)	2,360	4,266	人	R7.3.31	6,281	147%	a	A	全国の指標では目標値を上回る実績となった。花巻市においては、新たに4名の高校生おおはさま留学生を受け入れており、目標を達成した。	(事業実施結果) 岩手県立大迫高等学校生徒確保対策として地域みらい留学制度を活用した県外からの入学生受け入れを実施。 (成果) 新たに4名の高校生おおはさま留学生の受け入れができたこと、大迫高校の生徒確保が図られた。 (今後の課題) 大迫高校で学ぶ魅力を花巻地域や市外、県外に広めることにより、更なる新入学者を確保する。 (課題解決に必要な取り組み) 更なる高校生おおはさま留学生の募集や周知を図るため、引き続き地域みらい留学事業に参加し、全国に大迫高校の魅力を発信する。	大迫地域振興課
指標②	「都市部での地方高校全国説明会」参加者数	2,093	3,329	人	R7.3.31	4,346	131%	a	全国の指標では目標値を上回る実績となり、花巻市においては、オンラインによる学校個別説明会に7名の参加者があった。また、都内での対面個別説明会には、18組の参加者があった。									
指標③	「地域課題解決学習全国大会」エントリープロジェクト件数	292	793	件	R7.3.31	1,741	220%	a	全国の指標では目標値を上回る実績となった。花巻市においては当該事業を実施していない。									
指標④	「共学共創ネットワーク」参加自治体・学校数	55	83	団体	R7.3.31	119	143%	a	全国の指標では目標値を上回る実績となった。花巻市においては当該事業を実施していない。									

地方創生関係交付金対象事業実績状況報告書(令和6年度)

No.	① 交付金の種類	② 交付対象事業の名称	③ 事業内容	④R6事業実績	⑤R6 事業費実績 (円)	⑥ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					⑦R6 実績値	達成率 (自動入力)	判定 (自動入力)	⑧達成度	⑨実績値の達成・未達成要因	⑩事業の評価	担当課
						指標	指標値	目標値	単位	目標年月							
2	推進	テレワーク・ハイブリットワークで来訪・再訪の好循環創出による多拠点居住の推進事業	<p>(背景) 若者の多くが進学、就職を機に転出するなか、花巻市へのひとの流れをつくるためには、未来を担う若者を中心に、花巻市への移住・定住を支援する必要がある。また、安定した雇用の場の確保や住居対策等により、花巻市への移住者だけでなく、地元学生等が花巻市に住み続けたいと感じるような環境の充実を図ることで、定着を促進する必要がある。さらに、将来的な移住につながるよう、交流人口の拡大、花巻市と継続的に多様な形でかかわる関係人口の創出に取り組む必要がある。</p> <p>このことを受け、第2期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和3年)においては、基本目標の一つに、「花巻市への新しい人の流れをつくる」を掲げ、人口の社会増をめざすため、若者の雇用の場の確保などはもとより、首都圏の方々などに移住・定住先として本市を選択してもらえるよう、空き家バンクの運用、地域おこし協力隊の任用、シティブロモーションの推進、移住者や子育て世帯の移住に係る住宅取得・改修の支援など、移住者の受入れ支援策を積極的に進めている。</p> <p>(事業の目的) 首都圏にお住まいでテレワークに取り組む100人にアンケート調査を実施し、ワーケーションを含む地方でのテレワークに関して望むことや、必要な環境等について調査を行った。調査を通じ、「Wi-fi、机やいすなどのテレワーク環境は大切である」「その土地でしかあうことのできない人や、そこにしかない地域との交流を楽しみにしている」などの意見から、テレワーカーの受入に必要な視点を考えることができたほか、専門家からは「テレワークに慣れている人は、働く環境のほか、その場所にしかないもの、体験や経験を求める傾向があり、その点では花巻市はとても魅力的だ」とのご意見を頂戴し、本市が有するワーケーション的な資源の有効性を確認できたところである。このことから、本市での体験や交流も含めたテレワークについて、その交流や体験の様子を広く全国に発信し、花巻市でのテレワークの魅力を知っていただく必要がある。</p> <p>(事業概要) 1 インフルエンサーによる造成コンテンツ体験の情報発信 インフルエンサーを招聘し、テレワーク、農作業・伝承芸能・食にまつわる体験、宿泊を組み合わせたコンテンツを体験し、SNSなどの媒体(※)で情報発信を行う。 ※花巻の魅力発信するローカルメディア「まきまき花巻」等の既存媒体や新規メディアサイト、SNSなど 2 市移住支援相談員による移住定住相談対応 2拠点・多拠点居住者からの問合せ対応や、移住定住支援策(※)の紹介、マッチングなどを行う。(本市単独事業で実施) 3 首都圏における花巻市への立地企業への事業周知 本市への立地企業へ、本事業の情報発信メディアサイトの紹介を通じて、2拠点・多拠点居住者の本市への来訪を促す。(本市単独事業で実施)</p>	<p>1 インフルエンサーによる造成コンテンツ体験の情報発信 インフルエンサーを招聘し、テレワーク、農作業・伝承芸能・食にまつわる体験、宿泊を組み合わせたコンテンツを体験し、SNSなどの媒体(※)で情報発信を行った。 ※花巻の魅力発信するローカルメディア「まきまき花巻」等の既存媒体や新規メディアサイト、SNSなど 2 市移住支援相談員による移住定住相談対応 2拠点・多拠点居住者からの問合せ対応や、移住定住支援策(※)の紹介を行い、マッチングなどについて対応できる体制を整えた(本市単独事業で実施) ※本市の移住定住施策：空き家バンク、地域おこし協力隊、定住促進住宅取得等補助金、子育て世帯住宅取得奨励金、若者等空き家取得奨励金等、結婚新生活等支援事業、移住支援金、花巻市シティブロモーションサイト「まきまき花巻」、花巻市移住定住ポータルサイト「いいトコ花巻」 3 首都圏における花巻市への立地企業への事業周知 立地企業懇談会にて、移住定住等のPRブースを設置し、本市への来訪を促す。(本市単独事業で実施)</p>	<p>・インフルエンサー招聘・各種体験などの費用 2,481,874円 ・メディア発信費用 278,000円 ・実施報告書の作成 50,000円 ・管理費 280,987円 ・消費税 309,086円 ○交付額 1,699,973円</p>	指標①	地域へのUIターン数	102	107	人	R11.3.31	72	67%	○	<p>地域へのUIターン数については、定住促進住宅取得等補助金や空き家バンクなどの制度による市外からの移住をカウントしたものであるが、目標値を下回った。</p>	<p>(事業結果) ・インフルエンサー・テレワーカーの市内での体験について、体験レポートの情報発信を行ったほか、市移住支援相談員による移住定住相談対応、立地企業懇談会での移住定住ブース設置などを行った。</p> <p>(成果) ・市内でのテレワーク、各種体験、宿泊などを体験レポートとしてまとめ、移住定住志向者向けに情報発信することができた。 ・2拠点・多拠点居住者からの問合せ対応を含め、移住定住ポータルサイトや、移住支援相談員を通じ、空き家バンクをはじめとする移住定住支援策の紹介を行い、マッチングなどについて対応できる体制を整えた。</p> <p>(課題) 首都圏から近い関東圏などは、移動のしやすさから拠点の一つとしての魅力を感じる方が多いと思料されるが、その一方で、国のアンケート結果によると、二地域居住をはじめとする理由として、「思い出やつながりがある場所」を選ぶケースが多いことから、国の「ふるさと住民登録制度」の動向も踏まえながら、関係人口を増やし、テレワーク・ハイブリットワークや二地域居住につなげていく継続的な取り組みや情報発信が必要である。</p> <p>(今後の方向性) ・体験レポートは現在も移住定住志向者向けポータルサイトに掲載中であり、引き続き掲載していくほか、2拠点・多拠点居住者からの問合せ対応を含めた、移住定住相談業務の充実に努める。 ・まきまき花巻については、令和7年度からのライター講座について、本市の市民ライターが企画運営に参画するなど、内容の充実を図っていることから、市外、県外、首都圏等の方々に、より花巻の魅力発信に努めていきたい。</p>	定住推進課
							指標②	「まきまき花巻」HPにおける県外からの閲覧数	97,520	98,320	人	R11.3.31	79,917	81%	○	<p>まきまき花巻の閲覧者数については下振れしたものの、本市が運営する、まきまき花巻の他に、移住定住ポータルサイト「いいトコ花巻」などを通じて、空き家バンクや各種制度の紹介を行った。移住スカウトサービスHP「スマウト」において、テレワーカー等の体験レポートを通じ、「花巻に滞在しながら、こんなテレワークができる」ということを情報発信できた。</p>	

地方創生関係交付金対象事業実績状況報告書(令和6年度)

No.	① 交付金の種類	② 交付対象事業の名称	③ 事業内容	④R6事業実績	⑤R6 事業費実績 (円)	⑥ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					⑦R6 実績値	達成率 (自動入力)	判定 (自動入力)	⑧達成度	⑨実績値の達成・未達成要因	⑩事業の評価	担当課
						指標	指標値	目標値	単位	目標年月							
3	推進	花巻市多文化共生のまちづくり事業	<p>(背景) 当市の外国人市民数は増加傾向にあり、近年その国籍や在留資格に変化が見られ、多様性が高まるとともに定住化が進んでいる。しかしながら、生活に不安を感じている外国人市民がいる現状や市民が多文化共生という言葉の意味を理解していない、言葉を知らないという現状が大きな課題となっている。これまでに公益財団法人花巻国際交流協会への委託並びに補助事業として、定住外国人を対象とした各種教室及び講座を開催しているが、同協会では外国人を雇用したことがなく、外国人市民の視点で企画された取り組みは行われていない。</p> <p>(事業の目的) 新たな外国人材を雇用し、外国人向けの生活情報発信や各種講座を開催するほか、市民に向けた多文化共生への理解促進を目的とした講座を開催することなどにより、外国人市民と地域住民等の交流を促進し、多文化共生社会の実現を図る</p> <p>(事業概要) 当市の多文化共生の推進拠点施設でもある「花巻国際交流センター」の受託者である公益財団法人花巻国際交流協会において、新たに外国人材を雇用し、外国人の視点によるSNS等を活用した生活情報の多言語発信、外国人相談受付、生活講座・日本語講座などや市民の多文化共生への理解を推進するための外国人材による講座を実施する。また、外国人材の人脈を生かし、外国人市民と地域住民が交流できる講座や、留学生と地元企業等が交流できるイベントなどを行う。さらに、キーパーソンとなる外国人市民を支援するための講座等も開設し、外国人市民に必要なコミュニケーション支援や生活支援、市民への意識啓発と外国人市民の社会参画支援、外国人市民との連携・協働による地域活性化を推進する。</p> <p>(具体的な取組) (1)市民を対象とした多文化共生を推進するための講座等の企画・実施や、SNSを活用した情報発信を行う外国人材を雇用する (2)雇用する外国人材の視点でやさしい日本語や多言語等に翻訳すべき必要な情報を選定し、翻訳を外注する (3)外国人市民を対象とした日本語教室を拡充するとともに、市民を対象とした多文化共生サロンや生活講座等を雇用する外国人材の視点で企画し開催する</p>	<p>・多文化共生サロン 5回開催 111名参加 (うち1回は日本文化体験講座と同時開催) ・日本語講座 10回開催のべ86名参加 ・日本語スキルアップ講座 8回開催 のべ63名参加 ・日本語ボランティア入門講座 5回 のべ24名参加 ・生活講座 2回開催 54名参加(うち1回は日本文化体験講座と同時開催) ・国際都市推進員による出前講座等 5回開催 296名参加 ・SNS等を活用した情報発信 59回 ・やさしい日本語・多言語翻訳チャットの作成 (公財)花巻国際交流協会の利用案内、公共施設でのWi-Fiの使い方、バスの乗り方、熱中症啓発に関するチラシを作成し、SNS等で周知</p>	<p>・多文化共生推進事業を行うための人件費 3,831,023円 ・多言語情報発信用筆耕翻訳料 613,360円 ・多文化共生の推進のための外国人市民の支援事業拡充 382,870円 ○交付額 2,413,000円</p>	指標①	まちづくり市民アンケートにおいて、「多文化共生」という言葉を知っている人の割合	29.9	35.0	%	R9.3.31	31.4	90%	b	<p>令和5年度実績(33.2%)より微減となった。令和6年度も各種講座等の機会を通して多文化共生の周知を図ってきたが、多文化共生推進プランに基づいた取り組みを始めて2年目であり、市民に浸透するにはまだ時間がかかると思われる。</p> <p>(成果) 「多文化共生」の理解度・認知度については微減したものの、児童生徒を対象とした国際都市推進員による「多文化共生について考える授業」を新たに開始したほか、令和5年度に新設した多文化共生についての出前講座も令和6年度に初めて応募があり、多文化共生に関心を持つ市民が増えてきている様子が見受けられた。 ・多文化共生サロンは、昨年度より開催数を1回増やし、かつ外国人市民と地域住民等が交流する内容の回を増やしたため、参加者数が増加した。講師として参加した外国人市民にとっても日本人市民と交流する機会となったほか、開催数を増やしたことにより多くの日本人市民が多文化共生について学ぶ機会となり、多文化共生についての理解の推進に貢献することができた。</p> <p>(課題) ・令和6年度は、令和4年度末に策定した花巻市多文化共生推進プランに基づいた取り組みの実施2年目であり、多文化共生という言葉を知らない市民がまだ半数以上もいることから、引き続き市民へ周知や情報発信が必要である。</p> <p>(今後の方向性) ・引き続き情報発信をしながら事業を実施し、市民の多文化共生への理解の推進を図る。</p>	国際交流室	
						指標②	外国人市民と地域住民等の交流会等への参加者数	0	30	人	R9.3.31	87	290%	a			<p>令和6年度は多文化共生サロンの開催数を昨年度より1回増やし、かつ外国人市民と地域住民等が交流する内容の回を増やしたため、参加者数が増加した。</p>
						指標③	留学生等の地元企業等への就職数	0	1	人	R9.3.31	0	0%	c			<p>令和6年度は前年度に引き続き留学生と地元企業のマッチングを試みたが、留学生のニーズと地元企業の業務内容のミスマッチにより地元企業への就職には至らなかった。</p>

地方創生関係交付金対象事業実績状況報告書(令和6年度)

No.	① 交付金の種類	② 交付対象事業の名称	③ 事業内容	④R6事業実績	⑤R6 事業費実績 (円)	⑥ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					⑦R6 実績値	達成率 (自動入力)	判定 (自動入力)	⑧達成度	⑨実績値の達成・未達成要因	⑩事業の評価	担当課
						指標	指標値	目標値	単位	目標年月							
4	拠点整備	南部杜氏の里から日本酒文化を発信する「いつでも行きたい」交流拠点「道の駅石鳥谷」の形成	<p>(背景) 道の駅石鳥谷の課題として、①道の駅構内の各施設が前面道路である国道4号の正面を向いておらず、視認性が悪いほか、施設間の回遊性が悪い、②駐車スペースが不足しておりトイレが老朽化している、③インバウンドの増加や個人旅行者の増加により、道の駅利用者のニーズが変化・多様化しているなかで、道の駅構内の各施設がこうしたニーズに対応できていないといったことが挙げられ、利用者が減少している。</p> <p>(事業の目的) 国土交通省と市が連携・協力し、①南部杜氏の里の魅力発信と地域の憩い・交流の場の形成、②道の駅への視認性と分かりやすい進入動線の確保、③施設機能・配置や動線等の見直しによる利便性・回遊性の向上、④将来予測交通量に対応した駐車場の整備・トイレ数等の確保に取り組み、施設の利便性の向上と施設の一体的な活用を図る。</p> <p>(事業概要) ・南部杜氏伝承館を曳家し、道の駅の前面道路である国道4号に対して、道の駅構内の各施設が正面を向くようにレイアウトを変え、施設の回遊性を上げる。 ・南部杜氏の里の魅力発信として、南部杜氏伝承館内に試飲・販売ができるコーナーを新設するほか、多言語表記の充実や関係機関との連携によるインバウンドの誘客の推進を図るための改修実施設計を行う。 ・地産食材を活用したレストランであるりんどう亭と地域の特産品の販売を行う酒匠館が、道の駅の前面道路である国道4号に対して正面を向き、かつ現在の道の駅利用者のニーズに応じたサービスが提供を図るための改修の実施設計及び工事を行う。</p> <p>(具体的な取組) ・道の駅「石鳥谷」内の南部杜氏伝承館の曳家等工事 ・酒匠館・りんどう亭大食堂の改修設計及び工事 ・南部杜氏伝承館の内部展示改修設計 ・南部杜氏伝承館の浄化槽の撤去 ・りんどう亭の天井・クロスの張替や屋根の塗装等</p>			指標①	道の駅構内での各施設(南部杜氏伝承館、酒匠館、りんどう亭)での売り上げ高	134,923	157,923	千円	R7.3.31	213,696	135%	a	道の駅石鳥谷施設再編事業の完了により、令和5年7月15日に行われたリニューアルオープン以降、道の駅利用者の数が飛躍的に多くなり、売上げ高も多くなったもの。	(事業実施結果) ・令和5年度、道の駅石鳥谷施設再編事業として構内施設の大規模改修及び既存駐車場の舗装打替え工事等を実施。	石鳥谷総合支所地域振興課
指標②	道の駅構内での各施設(南部杜氏伝承館、酒匠館、りんどう亭)の購買客数	85,121	99,021	人	R7.3.31	173,296	175%	a	B	道の駅石鳥谷施設再編事業の完了により、令和5年7月15日に行われたリニューアルオープン以降、道の駅利用者の数が飛躍的に多くなり、各施設での購買客の増に繋がったもの。	(成果) 令和5年度の南部杜氏伝承館の曳家による移設をはじめ、酒匠館、りんどう亭大食堂の大規模改修、国と共同し駐車場の拡張や改良舗装工事を実施した。これにより従来と比較し国道4号側からの視認性や施設間の回遊性が確保され、道の駅利用者の利便性や機能性の向上が期待される。						
指標③	石鳥谷地域内のイベント観光客入込数	46,366	48,366	人	R7.3.31	25,800	53%	c	石鳥谷地域の3大イベント(南部杜氏の里まつり、石鳥谷まつり、石鳥谷まつり)は通常開催された。石鳥谷まつりについては、雨天での開催であったこと、入込客数の算定方法を見直し(石鳥谷地域の世帯をもとに観覧会場以外で観覧可能と見込まれる人数の加算をなくし、来場者のみとした)したことにより、入込数の減となった。	(課題・今後の方向性) リニューアルに相応しい運営体制を確立するため、酒匠館・りんどう亭・杜の蔵の指定管理者である株式会社石鳥谷観光物産と情報交換・問題共有に努め、解決に向けた協議を行っていくことが必要。							

地方創生関係交付金対象事業実績状況報告書(令和6年度)

No.	① 交付金の種類	② 交付対象事業の名称	③ 事業内容	④R6事業実績	⑤R6 事業費実績 (円)	⑥ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					⑦R6 実績値	達成率 (自動入力)	判定 (自動入力)	⑧達成度	⑨実績値の達成・未達成要因	⑩事業の評価	担当課
						指標	指標値	目標値	単位	目標年月							
5	拠点整備	中心商店街の賑わいづくり拠点「まちの駅いしどりや酒蔵交流会館」の再整備	<p>(背景) まちの駅いしどりや酒蔵交流会館は廃業した企業の土蔵2棟を改修し使用してきたものだが、従来、2棟とも出入口が1か所狭いことや、蔵の外と中、内部の床でも段差があることから、利用者が移動しづらい環境にあった。また、倉庫がなく、イベントの際に都度什器等を搬入しなければならないことも含めて、利用者から改修を望む声があげられていた。また、感染症対策に配慮する上では、出入口が1か所であることも使用する上で難がある。 地域の拠点として機能を向上させるためには、これらの施設の現状を解消する必要がある。</p> <p>(事業の目的) 地域住民だけでなく広く市民が訪れ、利用したい施設として再整備し、商店街や住民が主体となって屋内外での新たなイベント等の創出を図ることで、人とモノの交流を核とした地域の拠点づくりと商店街の売上げ向上への波及を促進する。</p> <p>(事業概要) 石鳥谷地域は古くから「南部杜氏の里」としてまちおこしを行ってきており、町内の公共施設や街灯などを蔵風として整備してきたことから、再整備する施設については、蔵の趣は保ちながら、ミニキッチンと倉庫を備え多目的に使用可能なホールを建築する。</p> <p>(具体的な取組) 酒蔵交流会館(土蔵2棟)を解体し、同じ場所に土蔵をイメージした外観の施設1棟を建築する。</p>			指標①	酒蔵交流会館を会場としたイベント売上高	0	2,900	千円	R8.3.31	0	0%	c	<p>石鳥谷地域の3大イベントのひとつ石鳥谷まつりや、酒蔵まつりなどの地元団体主催のイベント会場の一部として利用されたが、物販等売上げに繋がる催事は行われなかったため、実績値が0となった。</p>	<p>(事業実施結果) ・まちの駅酒蔵交流会館の再整備を実施。</p> <p>(成果) ・既存建物の解体/土蔵造・二階建/287.31㎡ ・新たな建物の再整備(新築)/木造・平屋/168.10㎡</p> <p>(課題・今後の方向性) ・再整備後の酒蔵交流会館の活用により、商店街や住民が主体となって屋内外での新たなイベント等の創出を図ることや、人とモノの交流を核とした地域の拠点づくりと地元商店街の振興を目指し、酒蔵交流会館の活用も視野に入れ地域団体等とともに検討していくことが必要。中心商店街づくり推進事業の実施主体である石鳥谷中央商店街振興会や既存イベントの実施団体の取り組みを引き続き支援するとともに商工会議所等を通じて施設利用の周知を図る。</p>	石鳥谷総合支所地域振興課
指標②	酒蔵交流会館の来場者数	33,000	35,500	人	R8.3.31	33,251	94%	b	C	<p>石鳥谷地域の3大イベントのひとつ石鳥谷まつりや、酒蔵まつりなどの地元団体主催のイベント会場の一部として利用されたが、同施設をメインとして利用されたものとしては小規模のサークルや自治会等の団体が大半であったため、目標値の達成には至らなかったもの。</p>							
指標③	酒蔵交流会館の年間利用回数	130	170	回	R8.3.31	70	41%	c	<p>石鳥谷地域の3大イベントのひとつ石鳥谷まつりや、酒蔵まつりなどの地元団体主催のイベント会場の一部として利用したほか、一定の小規模のサークルや自治会等の団体利用に留まったため目標値の達成には至らなかった。</p>								

地方創生関係交付金対象事業実績状況報告書(令和6年度)

No.	① 交付金の種類	② 交付対象事業の名称	③ 事業内容	④R6事業実績	⑤R6 事業費実績 (円)	⑥ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					⑦R6 実績値	達成率 (自動入力)	判定 (自動入力)	⑧達成度	⑨実績値の達成・未達成要因	⑩事業の評価	担当課
						指標	指標値	目標値	単位	目標年月							
6	拠点整備	地場産品の発信拠点、防災拠点、憩い・集い・賑わいの拠点としての「(仮称)道の駅『石鳥谷』交流ひろば」の整備	<p>(背景) 道の駅構内の休憩環境の向上への意見として、「無料で休める場所がほしい」、「外でコーヒーが飲める」などの休憩スペースを望む意見や、「市民交流スペースの設置」、「地元の人、子ども、海外の人が交流する」など、世代や立場を超えて交流を望む声が寄せられてきたほか、花巻市地域防災計画(平成27年7月策定)において、「物資集積・輸送拠点」に指定されたこと、また、令和2年1月には国土交通省と本市で「道の駅『石鳥谷』の防災利用及び相互支援に関する協定書」を締結したことを機として、災害発生時の拠点として適切な対応が求められている。</p> <p>(事業の目的) 国土交通省と協働し、再編整備を進めている道の駅「石鳥谷」内に、三方を施設に囲まれ、一方を前面道路の国道4号や道の駅駐車場に向けた「(仮称)道の駅『石鳥谷』交流ひろば」(以下、「広場」)を新設することにより、道の駅構内の施設の回遊性を高めるとともに、広場における地域イベントの開催や出店・キッチンカーによる地場産品・加工品の販売の場と、かまどベンチを整備し、広場を市内・県内の地場産品・加工品などの発信拠点、防災拠点として位置づけ、市民・道路利用者・観光客の憩い、集い、賑わいの拠点を形成する。</p> <p>(事業概要) 令和2年度に曳家工事を実施した南部杜氏伝承館や既存の酒匠館、りんどう亭大食堂をはじめとする三方の施設に囲まれた中心部に、19.35×18.75=362.8平方メートルの芝生広場を整備するとともに、酒匠館側面に新たに出入り口を設置するものである。芝生広場は施設正面である道路側から大きく見えるよう整備し、開放感ある空間として醸し出すとともに、酒匠館側面の出入り口は、広場を囲む各施設から直接踏み入れることができるよう設置し、各施設間の視認性や回遊性を高め、子ども達、親子連れ、観光客、道路利用者などが「憩う(休憩する)」、「集う(集まる、滞在する)」、「にぎわう」ことができる空間として整備するものである。また、「道の駅『石鳥谷』」は災害時の拠点施設となることから、国土交通省が整備する防災倉庫と連携してできるよう、芝生広場には災害時に炊き出し作業が行える「かまどベンチ」を設置するもの。</p> <p>(具体的な取組) ・広場工事(令和3年度、令和4年度) ・酒匠館出入口新設(令和3年度) ・かまどベンチの設置(令和4年度)</p>			指標① 広場の利用者数	0	48,860	人	R8.3.31	173,296	355%	a	C	道の駅石鳥谷施設再編事業の完了により、令和5年7月15日に行われたリニューアルオープン以降、道の駅利用者の数が飛躍的に多くなり、売上げ高も多くなったもの。	(事業実施結果) ・芝生広場(区画)整備及び酒匠館出入口(風除室)新設。 (成果) ・芝生広場(区画)362.8㎡ ・酒匠館出入口(風除室)新設/鉄骨造・平屋/9.8㎡ (課題・今後の方向性) ・広場整備等により、課題であった「視認性及び回遊性の向上」、「道の駅構内の休憩環境の向上」、「防災機能の充実」が図られ、今後も広場の利用者数が増加する見込みであるため、酒匠館・りんどう亭・杜の蔵の指定管理者である株式会社石鳥谷観光物産へ広場を活用した物販業者の招致やイベントの企画・運営を促していく必要がある。	石鳥谷総合支所地域振興課
指標② 広場における出店の売上高	0	19,800	千円	R8.3.31	3,958	20%	c	道の駅石鳥谷施設再編事業の完了により、令和5年7月15日に行われたリニューアルオープン以降、道の駅利用者の数が飛躍的に多くなったものであるが、広場をメインとした売上に繋がる催事はキッチンカーによる物販に留まったもの。									
指標③ 石鳥谷地域内のイベント観光客入込数	77,000	78,300	人	R8.3.31	25,800	33%	c	石鳥谷地域の3大イベント(南部杜氏の里まつり、石鳥谷まつり、石鳥谷まつり)は通常開催された。石鳥谷まつりについて、雨天での開催であったこと、入込客数の算定方法を見直したことにより、入込数の減となった。									